



毎年恒例のインカレトレイルが、今年もインカレロング前日に行われた。年に一度の学生のためのトレイルO大会であり、今年も熱い戦いが繰り広げられた。

■学生同士の技術の勝負■

毎年インカレロング前日に行われる通称インカレトレイルは、その名の通りトレイルOの学生チャンピオンを決める大会であり、今年も奈良県立野外活動センターを舞台として行われた。トレイルOは体力という要素の無い純粹な技術力の勝負であり、トレイルOをする機会の決して多くはない学生も、持てる技術を尽くしてトレイルOに臨むことになる。

また、出場選手のうち上位3人の成績の合計で争う大学対抗戦も存在し、個人のチャンピオンのほか大学クラブのチャンピオンも決定された。

■バラエティーに富むコース■

野外活動センターのトレインは、関西に特徴的な急峻な自然地形に囲まれた中に、キャビンや散策道といった野外活動センターならではの人工地形が散りばめられた構造になっており、コースもその特性を生かし、沢や湿地といった自然地形と、道や建物といった人工物をバランスよく取り入れたものが提供された。

コントロールは全体的にフラッグ間隔が広く、細かい設問はほとんどない一方、地図読み、地形読みの基本的な技術が課題として多く問われていた。ただしその中でも、インパクトのあるコントロールが織り交ぜられていた。

その最たるものは6番コントロールであり、道上に存在する円形の植え込みの周りに、極めて密に設置されたフラッグ群から、デフで指定された一つの方位を見極める6番コントロールは、筆者のとっても新鮮な印象をうけるものであった。というのも、従来の「方位」を問う課題と言えば、道から少し離れたものにフラッグをつけ、4または8方位に設置された中から正解を選ぶ、というものであったからである。

一方、勝負のポイントとなったのはTC1、4番、9番といった正統派の地図読み、地形読みコントロールであった。

TC1は、岩崖や柵といった人工物の密に存在するエリアに設けられ、時間のプレッシャーのかかる中で、斜めの視線の距離測定という課題を見抜き、実行するという冷静さを要求している。A・Bの二択に絞るまでは容易であるが、その二択に冷静に対処できたかで勝負が分かれた。

4番コントロールは広い沢の形をとらえ、その中心線を読み取るとともにDPのある道や左方のオープンとの位置関係から正解を導きだすもので、地形の読み取りというトレイルOの基本的な技術を的確に要求する良問である。

9番コントロールは補助曲線で描かれた小さな沢の読み取りであり、全てのフラッグがそれより奥の急斜面に設置されていると分かると正解のZが導き出される。ただ、このZの概念もトレイル独特のものであり、フットに慣れ親しんだ参加者達にとって、フラッグ間隔の短い一見難問を前に、Zという可能性を思いつかかもポイントの一つであったと思われる。

■全問正解を目指すも…■

筆者も所属する京都大学からこの試合に参加した。

この夏ヨーロッパ選手権、世界選手権と海外遠征を行い、2日間計44問の難コースを満点で終える世界トップに刺激を受け、「今日は自分が」と全問正解を目指してこのコースに臨んだ筆者であった。

しかし、そのはやる気持ちを抑えられず、冷静さ欠いたまま臨んでしまった出だしのTC1(上記)で、距離測定に踏み切れずこれを落としてしまう。

その後は冷静さを取り戻し、順調に進むかに思われた2番コントロール、プログラムの読み込みが甘く道の中心線に関する今回の例外を忘れてZと回答し、これも落として-2。その後のコントロールは何とか正解することができた。

年に一度の大学生同士の戦いに興奮を覚えつつも、やはりトレイルOをなめてはいけぬ、と気持ちを新たにした筆者であった。

■東北大学が二冠■

結果は東北大学が個人、団体の両者を制して二冠を達成した。ただ、団体の大学対抗戦は3人以上エントリーしたのが東北大・東京大・京都大の3校のみと、やや寂しさの残るものであった。成績は以下の通り。

・Aクラス

- 1(一般)、山口拓也 13点36秒
- 2(学生1)、佐藤悠太 11点69秒
- 3(学生2)、伴毅 11点77秒
- 11(学生3)、奥俊博 10点77秒

・Aクラス(パラリンクラス)

- 1、木島英登 9点46秒

・Bクラス

- 1、小林洋平 8点
- 井上敦 8点
- 3、田村祐馬 7点
- 佐藤大典 7点

・大学対抗戦

- 1、東北大学(佐藤、奥、田村) 31点237秒
- 2、京都大学(伴、宇都宮、松矢) 30点348秒
- 3、東京大学(福西) 10点87秒

今回はインカレトレイルでエリート権を得た学生こそ少なかったものの、インカレトレイルはトレイルOの機会を提供するとともに、全日本トレイルや世界選手権の入り口という役目も帯びており、これを機会として全国、さらには世界の舞台に、より多くの学生選手が活躍して欲しいと願うばかりである。(伴毅)

東大は、チャーターしたバスが渋滞にはまり、殆ど不参加となり残念でした。次回は、多数の参加で、東北大、京大との真の競り合いを見たいものです。又、インカレに参加している他大学の皆さんのもの、トレイルに参加してもらいたいものです。地図読みの正確さ向上に役立ちますし、やってみれば、走るオリエンにはない、面白さを体験できること間違いなしですよ。

(伴毅 / 田中博追記)